

平成30年度
開校予定

新市立高等学校の 基本設計が完了しました

現在の市立高校3校(川口総合高校、川口高校、県陽高校)を再編・統合した新市立高校の開校にあたり、新たに整備する施設の規模や配置などがまとまりました。

課程・学科など

新市立高等学校は、全日制課程の普通科と理数科、定時制課程の総合学科を設け、両課程とも単位制を導入します。全日制の各学年は、普通科10学級40人・理数科2

学級80人、定時制は、総合学科3学級120人です。全学年の合計は、1千920人の規模となります。

現在の3校は、平成29年度末に閉校します。在籍生徒は、平成30年度から、全て新校の生徒となります。



外観イメージ((仮称)都市の門から)



校舎棟内部イメージ(4階渡り廊下から)

今後のスケジュール(予定)

- 平成26年度 実施設計
- 平成27年度 実施設計・新校工事着工
- 平成29年度 新校舎竣工
- 平成30年度 新校開校
- 平成32年度 アリーナ棟竣工
- 平成33年度 新校工事完了

設計のコンセプト

3校の歴史と伝統を踏まえつつ、これからの時代に対応しながら、本市教育のリーディング校を目指します。また、近隣のSKIPシティなどと連携し、立地特性を生かした施設となることをコンセプトにしています。

施設の特徴

生徒同士のにぎわいや交流を深めるための新たな導線として、敷地の東西を貫く「(仮称)キャンパスロード」を配置します。

また、校舎棟の内部は2階から最上階までを吹き抜け空間とし、その上部に設置した「膜屋根」によって明るく開放的なスペースが創り出されています。

充実した施設

快適な学習環境の施設を整備することを目標とし、普通教室、特別教室、管理諸室などは冷暖房を完備します。

また、運動施設は大アリーナや野球専用グラウンドなどを整備します。第1校地のグラウンドは、部活動の活性化、近隣への砂ぼこり対策、校舎内美化のために人工芝を導入します。

一足制下定を中心とした学校生活

大規模校となるため、一足制を取り入れます。そのため、スペースの有効利用が可能となり、非常時における避難も容易となります。

エコスクール

膜屋根による自然採光に加え、雨水・井水・地中熱を活用します。周辺環境や地球高温暖化防止に配慮しながら、さらにライフサイクルコスト削減を図る施設を準備します。

避難施設としての機能

災害時における避難施設の機能を備えるように、防災備蓄倉庫、マンホールトイレなどを整備します。

詳細は、市ホームページをご覧ください。

第1校地 施設概要



計画場所: 上青木3-1-40
(現 川口総合高校、現上青木公民館敷地および周辺の廃道を含む)

敷地面積: 49,620㎡ 建築面積: 13,484㎡
延床面積: 33,435㎡ 階数: 地下1階 地上5階
整備施設: 校舎棟、アリーナ棟、第1グラウンドなど

第2校地 施設概要



計画場所: 朝日5-9-18
(現 市立川口高校)

敷地面積: 31,882㎡ 建築面積: 630㎡
延床面積: 630㎡ 階数: 地上1階
整備施設: 管理棟、第2グラウンド など

この事業は「地方都市リノベーション事業」を活用して実施します。